

①がこしま水族館近くの岸壁にある、ふたをされた川（暗渠）の出口（中央下）②南さつま市笠沙の水路。両岸がコンクリートで固められている③南さつま市の笠石川の河口付近。自然に近い状態で、生き物が生息できる環境が残っている



水辺は危険な場所でもあり、護岸をコンクリートで固めて柵を立てるなど、人が落ちないようにしている所が多くあります。鹿児島市の天文館公園の下には、清滝川という川が流れています。上に道路を通すためにふたをされている川（暗渠）で

私たちの暮らすまちの水辺は、海水と淡水（塩分を含まない真水）に大きく分けられます。今回は身近な淡水について考えてみましょう。鹿児島市では、市街地を甲突川が流れています。薩摩川内市の蘭牟田池や、指宿市の池田湖も有名です。ホテルの飛び交う姿を見られる場所もあります。



淡水の水辺 多様な動植物のすみか

賢治（展示課学习交流係主任・船川）

最近では環境に配慮し、人間も親しめる河川整備が行われています。人も生き物も過ごしやすい水辺が広がると思います。

留めておいてください。

水辺には水生植物やタガメ、トンボなどの昆虫、カニやカエル、イモリなど、魚以外にも多様な生き物がいます。淡水の生き物は、池や川で独自に進化してきたものも多くいます。限られた地域でしか生きていけない種は、すみかを奪われ、絶滅してしまうことも少なくありません。水辺が消えてしまうと、そんなことが起きるということを心に留めておいてください。

見えないからといって、なくなっただけではありません。一方、私たちの周りには、人間が生活するために埋め立てられてなくなった小さな川や池があります。では、そこにいた生き物たちはどうなるのでしょうか。